

感染症情報 1月18日～24日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1358例（堺市 67例）
②溶連菌感染症	470例（堺市 17例）
③RSウイルス感染症	173例（堺市 9例）
④伝染性紅斑	129例（堺市 7例）
⑤おたふくかぜ	96例（堺市 9例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 2822例（堺市 205例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から13%増加し、第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がRSウイルス感染症となっている。インフルエンザは3倍増加し、定点当たり9.2と注意報レベルの10に近づいた。全国的には定点当たり10.6で新潟県29.3、沖縄県18.2、千葉県14.1と17都道府県が注意報レベルの10を上回った。直近5週間では7年前に大流行したAH1pdm09が最多でB型が続く。堺市でも今週庭代台小始め、20クラスが学級閉鎖となり、今後流行は拡大するだろう。